



地吹雪にかすむ落日の仙丈ヶ岳—甲斐駒ヶ岳から



北岳山頂よりバットレス沢落つ



新雪色づく朝の赤石岳—千枚岳から



灼熱の太陽、いま昇る—千枚岳



雲上、端然と坐す—千枚岳



紅葉に映える新雪の農鳥岳—南アルプス林道から

南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念

白簾史朗

日本の名峰を撮る—南アルプスを中心に—

令和6年5月11日(土)~7月15日(月・祝)

同時開催「南アルプスユネスコエコパーク」展

南アルプス市立美術館では、南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を記念して、日本を代表する世界的な山岳写真家であり、南アルプスとも大変ゆかりの深い白簾史朗の写真展を開催します。

白簾史朗は、1933(昭和8)年に山梨県大月市で生まれ、1951(昭和26)年から富士山の写真家・岡田紅陽に師事した後、1962(昭和37)年に独立し、日本アルプス、富士山などの日本の山々や、ヨーロッパ・アルプス、ヒマラヤなどの世界各地の名峰を撮影しました。

中でも南アルプスは、1962年に写真家として独立した後、最初の一步を踏み出した場所と言われ、主峰北岳との運命的な出会いを「おお、そこに何が見えたらう。日本第二の高峰、日本アルプスの覇者“北岳”が厳然として座していた。深く深く足下に切れこんだ野呂川の谷、その一気に落ち込んだ底から長蛇のごとくの上がる大樺沢雪渓の源頭には、私が名のみ聞いて憧れるバットレス600メートルの垂壁があった。・・・(中略)私の心はいっぺんに北岳に吸い取られてしまった。そして、私と北岳、いや南アルプスを結びつけた絆がこの瞬間に生じたのである。」と述べており、彼の写真家人生で大きな位置を占める山となりました。

今展では、彼のライフ・ワークとも言える南アルプスの山々を中心に、富士山、八ヶ岳の山々など、白簾史朗が撮る日本の名峰の数々を展示します。

関連イベント 美術講演会「白簾史朗と日本の名峰—南アルプスを中心に」

講師：萩原浩司(山と溪谷社 山岳出版本部 本部長)
日時：5月18日(土) 午後2時~
場所：美術館研修室
定員：50名

申込：5月11日(土)~
午前9時30分より受付
定員になり次第終了
参加料：入館料に含む



交通のご案内

- 電車・バス JR中央線 甲府駅下車(バス利用35分)
山梨交通バスターミナル
西野経由小笠原下仲町行き「市立美術館」下車
十五所経由鮎沢営業所行き「戸田町」下車 徒歩10分
- 自動車 県道42号線沿い
中央自動車道 甲府昭和ICより20分 県道42号線沿い
中部横断自動車道 白根IC・南アルプスICより5分 県道42号線沿い

美術館公式HPはこちらから
<https://www.miniamalps-museum.jp/>

美術館公式facebookはこちらから
<https://www.facebook.com/235851723615051>

*展覧会、各イベントは延期または中止になる可能性があります。
ご来館前に当館ホームページ等をご確認ください。



南アルプス市立美術館
MINAMI ALPS CITY MUSEUM OF ART

〒400-0306
山梨県南アルプス市小笠原1281
TEL 055-282-6600 FAX 055-282-6601

